

## 一中『見方・考え方』と『表現力』

教科	見方・考え方	表現力
国語	視点・立場を明確にし、言葉の意味や使い方に注意して、場面や状況に応じた適切な表現をすること。	場面・状況・相手に応じて、適切に描いたり発表したりすることができる。
数学	身の回りの事柄を数や式、図形やそれらの関係に着目して捉え、根拠をもとに筋道を立てて考えること。 異なる複数の事柄をある観点から捉え、共通点を見いだして一つのものとして捉え直したり、考察の範囲を広げていくことで新しい知識や理解を得ようとしたりすること。	解決方法やその根拠・よさなどを数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に説明し合うことができる。
理科	主として量的・関係的な視点で比較したり、関係付けたりするなど科学的に探求する方法を用いて考えること。	自分の考えを言葉で表現できる。 実験を通して分かった「きまり」を発表できる。
社会	社会的事象を、日本や外国の地域における共通点や相違点などに着目して捉え、他の事象などと関連付けながら多面的・多角的に考察すること。	根拠となる資料を明らかにしながら説明することができる。
英語	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を理解したり、認めたりしながら、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを広げたり、深めたりすること。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて情報を整理しながら、相手意識を持って自分の意見や考えを伝えたり書いたりできる。
体育	運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。	場面に応じて、友達同士で伝え合ったり、協力し合ったりすることができる。 資料を読み取り、友達と意見交流を行ったり、実生活に向けて思ったことを具体的に説明したりすることができる。
保健	個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。	
美術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。	造形などを介して思い描いたことを、自分が感じ考えたこと基にした理由とともに、形や色や言葉や文章などに置き換えることができる。
音楽	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、強弱など）とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形作っている要素（音色・リズム・強弱など）とその視点で捉え、曲種に応じた発声や奏法で表現することができる。
技術	身の回りや社会の課題を、技術の関わりで考え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。	自分の考えや発想を、根拠をもって言葉や図や政策品で具体的に表すことができる。
家庭	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る自分自身の生活を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。	